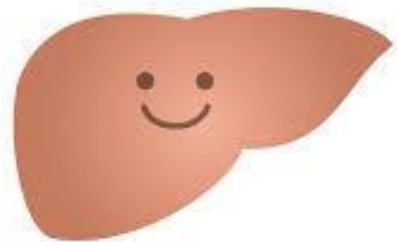


よくわかるC型肝炎のお話～最新の治療について～

C型肝炎と薬物治療

～マヴィレット配合錠～



加古川医療センター 薬剤部



C型肝炎の治療方法

◆原因療法

C型肝炎ウイルスを体内から排除して
完全治癒を目指す

• 直接作用型抗ウイルス薬(DAA)

直接ウイルスを攻撃することによって抗ウイルス作用をあらわす飲み薬です。

• リバビリン

インターフェロンや直接作用型抗ウイルス薬と併用することによって治療効果を高める飲み薬です。

◆対症療法

肝機能を改善して肝炎の悪化を防ぐ

• グリチルリチン配合剤(注射)

肝臓の細胞膜を強くすることによって肝細胞の破壊を防ぐ働きがあります。

• ウルソデオキシコール酸(飲み薬)

肝臓の血液の流れをよくする、あるいは肝臓にエネルギーを蓄積することによって肝機能を改善する作用があります。

治療の第一目標は
C型肝炎ウイルスによる
肝がんの発症を阻止すること！

直接作用型抗ウイルス薬 (DAA) による治療

慢性肝炎
代償性肝硬変

ジェノタイプ1型

- ・ハーボニー® 配合錠 (ソホスブビル/レジパスビル)
- ・マヴィレット® 配合錠 (グレカプレビル/ピブレンタスビル)

ジェノタイプ2型

- ・ソバルディ® 錠 (ソホスブビル) +
レベトール® カプセル (リバビリン) 併用療法
- ・ハーボニー® 配合錠 (ソホスブビル/レジパスビル)
- ・マヴィレット® 配合錠 (グレカプレビル/ピブレンタスビル)

直接作用型抗ウイルス薬（DAA）による治療

慢性肝炎
代償性肝硬変

ジェノタイプ3型

- ・ソバルディ®錠（ソホスブビル）＋
レベトール®カプセル（リバビリン）併用療法
- ・マヴィレット®配合錠（グレカプレビル/ピブレンタスビル）

ジェノタイプ
4～6型

- ・マヴィレット®配合錠（グレカプレビル/ピブレンタスビル）

ジェノタイプによって
お薬の服用期間は異なります



直接作用型抗ウイルス薬 (DAA) による治療

DAA治療失敗例に対する再治療

・マヴィレット®配合錠 (グレカプレビル/ピブレンタスビル)
12週間投与

非代償性肝硬変 (全てのゲノタイプ)

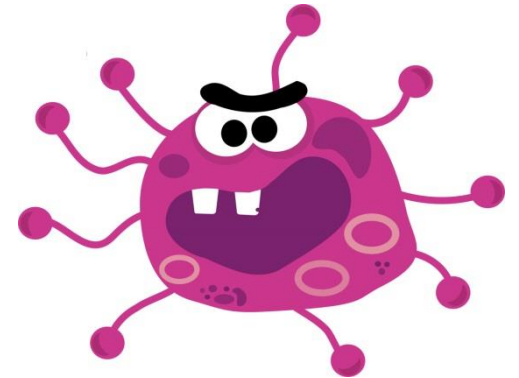
・エプクルーサ® (ソホスブビル/ベルパタスビル)
12週間投与

直接作用型抗ウイルス薬（DAA）

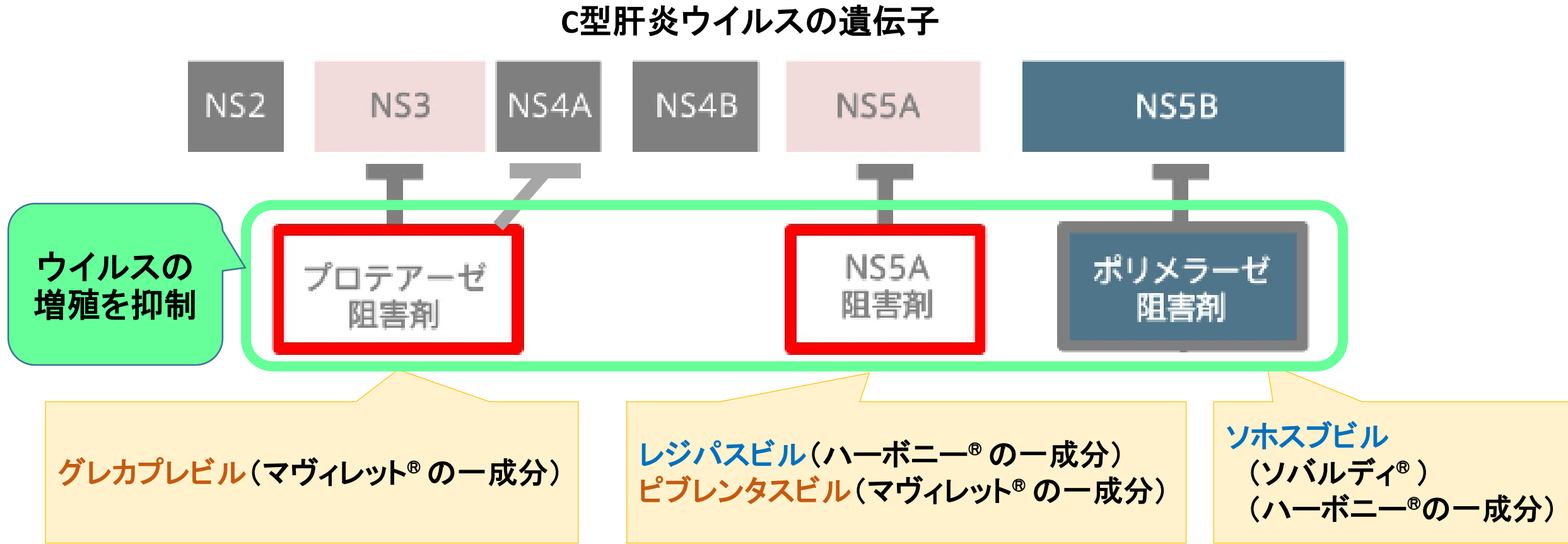
- ・ インターフェロンは体内の免疫を活性化することでウイルスを排除していくが、DAAはウイルスの**遺伝子に直接作用**してウイルスの増殖を抑制し排除する。

DAAの特徴

- ・ 飲み薬である。
- ・ 服用期間が短く、比較的副作用が少ない。
- ・ 遺伝子の異なる場所へ作用するDAAを併用することが多い。
(配合錠となっている薬剤もある)
- ・ 治療不成功例では高頻度で遺伝子の変異が認められ、薬に効きにくい耐性ウイルスが発現するため注意が必要。



直接作用型抗ウイルス薬（DAA）の作用機序



作用点の異なるお薬（成分）を合わせて使うことで、お薬の効果減弱を防ぎ、相乗効果が期待されます。

グレカプレビル/ピブレンタスビル 併用療法 (マヴィレット®配合錠)

- C型慢性肝炎又はC型代償性肝硬変に用いる
 - ➔ ジェノタイプ1型～6型まで全ての型に有効
- ジェノタイプ1・2型のC型慢性肝炎に対しては8週間(2ヶ月)、
// C型代償性肝硬変に対しては12週間(3ヶ月)、
ジェノタイプ3～6型に対しては12週間(3ヶ月)服用

マヴィレット®錠
1日1回 (1回3錠)

- ・透析中の方、腎機能障害がある方にも使用可能です。
- ・食後にお飲みください。



- 副作用
そう痒(4.8%)、頭痛(4.2%)、倦怠感(3.0%)、血中ビリルビン増加(2.4%) など

マヴィレット® 配合錠の他の薬との飲み合わせについて

一緒に服用してはいけない薬

- 抗結核薬: リファンピシン
- 高脂血症: **アトルバスタチンカルシウム**
- 抗HIV薬: アタザナビル

一緒に服用する際に注意が必要な薬

- 強心剤: ジゴキシン
- 抗血小板薬: ダビガトランエテキシラートメタンスルホン酸塩
- 抗てんかん薬: カルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール
- 卵胞ホルモン製剤: エチニルエストラジオール含有薬品
- 高脂血症治療薬: **シンバスタチン、プラバスタチン、フルバスタチン、ピタバスタチン、ロスバスタチン**
- 免疫抑制剤: シクロスポリン
- **セイヨウオトギリソウ(セント・ジョーンズ・ワート)含有食品**

高コレステロール血症薬
との飲み合わせに注意！
特にアトルバスタチンは一緒に
飲んではいけません！



など

セイヨウオトギリソウについて



- セントジョーンズワートとも言われ、オトギリソウ科の多年草で古代ギリシャの時代から薬用ハーブとして用いられてきた。
- うつ病や不安神経症、睡眠障害に有用といわれている。
- 体内に存在する薬物を代謝する酵素(CYP1A2やCYP3A4)を増やしたり薬物の排泄を促進させ、様々な薬(抗ウイルス薬、抗がん剤、抗凝固薬、免疫抑制剤など)の効果を低下させる可能性がある。



⇒薬との飲み合わせに注意が必要

セイヨウオトギリソウについて

- 食品として健康食品やサプリメント、ハーブティーに含まれていることがある。

(例)



成分の確認を！

- 長期にわたって服用していた場合に影響が出る可能性が高い。服用を中止してもすぐに効果が消えるわけではありません。
- お薬の効果を高め、副作用を防ぐために、普段使用されている健康食品やサプリメントの情報は医師・薬剤師に必ずお伝えください。

最後に

- ①併用してはいけない薬剤、サプリメントがありますのでご不明な点がありましたらご相談下さい。
- ②飲み忘れなく服用することがC型肝炎ウイルスを駆除するのに大切なことです。

